

ハザードマップの解説

■ 避難先・避難経路を確認しておきましょう いざという時に備えて

命を守るためには何より避難が重要です。いざというときに備えて、日頃から危険な場所や避難先・避難経路などを確認しておきましょう。

また、災害時には地域の人たちとのつながりが、ご家族を救う大きな力となります。いざという時に備えて、普段から地域の行事や防災訓練などに積極的に参加して、コミュニケーションをとることも、重要な防災対策となります。

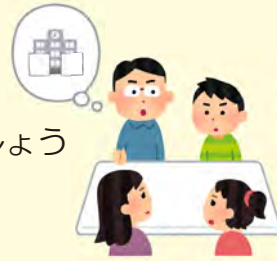
自宅周辺の状況を確認

- 1 自宅周辺でどのような災害が起こる可能性があるかを確認しましょう
- 2 自宅周辺が自然災害の危険箇所となっていないかを確認しましょう
- 3 自宅周辺で、これまで、洪水により浸水した箇所があれば注意しましょう



避難先や避難経路を確認

- 1 避難先を確認しましょう（近い避難場所を2か所以上確認）
- 2 自宅から避難場所まで実際に歩いてみて危険な箇所がないか確認しましょう
- 3 複数の避難経路を検討しましょう
- 4 家族の集合場所を決めましょう



■ 確実な避難ができるよう準備しておきましょう いざという時に備えて

風水害と地震では避難行動が異なり、避難場所もそれぞれに設置されます。日頃から災害時に安全で確実な避難ができるよう準備しておきましょう。

風水害の場合	大雨発生	早めの避難	緊急避難
	<ul style="list-style-type: none"> ● テレビやラジオで正確な情報を収集する。 ● 函南町など行政から発表される避難情報（高齢者等避難、避難指示など）に注意しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難の方法には「水平避難」「垂直避難」などがあり、状況に応じて適切な判断をしましょう。 ● 「水平避難」の場合は、近所で声を掛け合って、早めに指定緊急避難場所へ避難することが重要です。 	<p>大雨や洪水などで自宅が浸水して危険な場合は、避難所への道も浸水している可能性も大きいので、無理して避難所へ向かわず、自宅やご近所の2階など、少しでも安全を確保できる場所に緊急避難してください。</p>
地震の場合	地震発生	揺れがおさまる	避難の判断
	<ul style="list-style-type: none"> ● 落ち着いて自分の身を守る。 ● ドアや窓を開けて逃げ道を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 速やかに火の始末をする。（ガスの元栓を閉め、コンセントを抜き、ブレーカーを切りましょう。） ● 余震に注意しながら、隣近所の安全を確認する。 ● ラジオなどで正しい情報を確認する。 	<p>危険あり 指定緊急避難場所へ避難 隣近所で声をかけ、自力で避難できない人を支援するなど、助け合いながら避難しましょう。</p> <p>危険なし 自宅生活の継続</p>

地震・土砂災害用防災マップ

以下の3つの図を掲載しています。日ごろから地震や土砂災害による危険箇所や避難所を確認し、避難行動に役立てましょう。

- 震度分布図
- 液状化危険度分布図
- 土砂災害警戒区域・特別警戒区域図



▲地震・土砂災害用防災マップ（例）

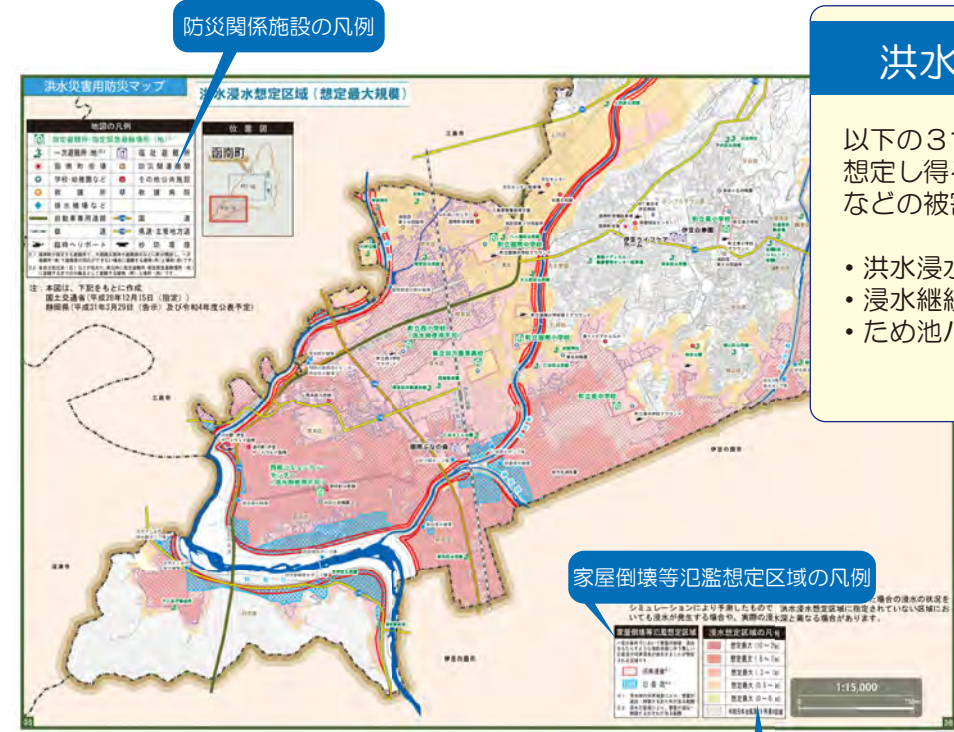
防災関係施設の凡例

災害危険度の凡例

洪水災害用防災マップ

以下の3つの図を掲載しています。想定し得る最大規模の降雨に伴う浸水などの被害を示しているものです。

- 洪水浸水区域図（想定最大規模）
- 浸水継続時間（想定最大規模）
- ため池ハザードマップ



▲洪水災害用防災マップ（例）

家屋倒壊等氾濫想定区域の凡例

浸水想定区域の凡例